

**小学生の生活圏 (その1) 1日の行動距離**

○北浦かほる\* 萩原美智子\*\*

(\*大阪市大, \*\*大手前女子短大)

**1 はじめに** 外で遊ぶ子が少なく、子供の動きが見え難くなっている。一方、子供の体験する世界は交通手段を使って移動する範囲やテレビなどの情報から知る世界は広がっているが、子供の生活圏はどのような広がりを示すのか、その実態を捉えようとした。その1では、ある1日の行動範囲を行動目的と距離から明らかにしようと試みた。

**2 調査概要** 大阪近郊の2小学校の2年212名と4年197名の計409名を対象に1999年11月2日と12月2日に調査した。調査前日の一日について行動を尋ね移動経路を地図上に求めた。

**3 結果** 地図上の道を辿り実際に移動した距離を測定すると、通学距離は1km以内が8割で平均658mであった。通学を含む一日の行動距離は、大人と一緒に行く行動も含めると片道平均約1.3kmとなり、帰宅後も通学距離と同じ程度行動していたことになる。しかし、通学以外の行動距離が0の子供が35%もいた。遊ぶために出かけた子は約5.5割、習い事が4割、買い物が1割と、遊びに行く子供は少なく4年生になると更に減る。また遊びに行く場所は友達の家が4割以上を占める。個人の行動距離の中で各行為の距離が占める率は、通学が7割弱を占め、習い事1割強、遊びは1割と少ない。帰宅後は家から出かけない子供が多く存在することが分かった。また子供の1日の行動距離の中で子供が自分の意志で自由に行動している距離は極めて少ないことが分かった。